

水覆

ナリ、ソレハ五徳ノフタヲキト云也、臺子ノ七カザリニ、風爐釜水指ヲ初トシテ、ミナカ子ノモノヲ用ル、柄杓ハ柄杓立アリ、茶釜ハ茶釜ノセアリテ、蓋置バカザリハカザリツクル處ナシ、モロカザリツケテ、亭主ノ持出ルモノハコボシバカリナリ、ソレ故フタヲキヲコボシノ内ヘ入込テ出ルヲカクレガト云、コボシノ内ヘ入テミヘザレバナリ、イカサマニモ是バカリハカザリツクル處アルマジ、蓋置ト名ノツキタルモノナ、又フタモトラズニカザルソレ故ニ、カ子ノフタヲキヲコボシヘクミタルヲ、カクレガト云カラシテ、カ子ノモノヲカクレガト云、五徳ノ名ニアラズ、此御流儀ノ御傳ニテ、大秘密ノコトナリ、必ズ他人ニカタルベカラズト仰ラル

〔古今茶之湯諸抄大成五〕一東山殿義政軸の蓋置といふ物あり、東坡が南山の軸とて、南山の懸物の軸の金具也、筑前の國宗福寺より紫野大徳寺へわたりて、東山殿に傳り蓋置になりたるよし。

〔總見記十七〕雜賀一揆等降參并勢州敵徒蜂起事

同年三月正月五廿三日若江ノ城迄御凱陣織田信長ナリ、當城ニ於テ化狄ト云フ茶入天王寺屋龍雲

ト云者所持候ヲ召上ラレ、開山ト云フ蓋置、今井宗久ト云者ヨリ召上サセラレ、二銘ト云フ茶杓以上三種ノ御茶道具過分ノ金銀ヲ代物ニ被下召上ラレ御悅ビナリ

〔倭訓栞中編二十五〕みづこぼし 建蓋をいふ、下水ともいへり、又建水の音轉じて、けすいといふ

ともいへり、

〔和漢三才圖會三十一〕手帕 建水保古

建水磁器銅器隨有用、所以棄餘滴也、

〔茶具備討集〕水倒 水覆 下水

合子 骨吐 棒頭 鍍塞底穴者是也 茶飯裏サハリ當字也、高麗總食器之言也、 釜蓋 鴟口古餌磨